

# THE YMCA

## 日本YMCA基本原則

私たち日本のYMCAは、イエス・キリストにおいて示された愛と奉仕の生き方に学びつつ世界のYMCAとのつながりのなかで、次の使命を担います。

私たちは、すべての人びとが生涯をとおして全人的に成長することを願い、すべてのいのちをかけがえのないものとして守り育てます。

私たちは、一人ひとりの人権を守り、正義と公正を求め、喜びを共にし痛みを分かちあう社会をめざします。

私たちは、アジア・太平洋地域の人びとへの歴史的責任を認識しつつ、世界の人びとと共に平和の実現に努めます。

2016年12月1日発行 (毎月1日発行)  
1947年10月27日 第三種郵便物認可  
本体価格45円(外税) (送料62円)  
発行/公益財団法人 日本YMCA同盟  
〒160-0003 東京都新宿区本塩町7  
TEL: 03-5367-6640 FAX: 03-5367-6641  
URL: <http://www.ymcajapan.org/>  
発行人/島田 茂 編集人/山根 一般  
印刷/あかつき印刷株式会社

## 若者の居場所と参加



上智大学  
総合人間科学部教育学科教授  
田中 治彦

その年のナンバーワンの芸人を競うM1グランプリで、「どうして芸人になろうと思ったのですか?」と聞かれて、ある芸人は「高校の時に芸人ってかっこいいなあ、と感じてM1を目指しました」と答えていました。今の時代であれば、このような発言は違和感なく聞くことができますが、これが40年前であったらどうだったでしょうか。おそらく親や周囲は大反対、もっと堅実な仕事に就きなさい、と諭したことでしょう。

今は、昔と違って比較的自由に仕事を選択することができるようになりました。若者にとっては、良い時代になったと思われるかもしれませんが、しかし、自由であるということは、その選択した道が険しく、失敗しても誰も補償してはくれず、自己責任と言われてしまうということです。40年前の日本のように、終身雇用で安定した仕事は、今は多くはありません。その意味では、若者にとって現代は、将来を見通すことができない生きづらいつの世の中になったと言えるでしょう。

若者のみならず、私たちを取り巻いていたセイフティ・ネットは年々縮小しています。かつては、家族、地域、企業、国が私たちの生活を保障してくれていましたが、1990年代以降、経済のグローバル化が急速に進み、私たちの生活基盤は

ますます不安定になっています。

このような時代にあっては、一人ひとりが自分の「居場所」を確保することが大切です。居場所とは、信頼できる人間関係があり、近い将来への展望が見え、安全と安心を感じられる場。グローバル経済からできるだけ切り離された、温かい人間関係を中心とした場です。その意味で、YMCAはまさに居場所となり得る空間です。居場所は単に、厳しい現実からの避難所という意味ではありません。そこは競争原理中心の社会から離れて、人間として何が大切なのか、何をなすことができるのかを考えられる「創造の場」でもあります。厳しい現代社会を少しでも良い方向にもっていくためのアイデアを練り、行動につなげる場所でもあるのです。

2016年から始まった「国連・持続可能な開発目標(SDGs)」のスローガンは「誰一人取り残さない」です。これは、貧困や社会的差別に苦しんでいる人びとが、自分の「居場所」をもてるような世界づくりをしよう、と読み替えることもできます。YMCAが「誰一人取り残さない」居場所となり、ここで、社会をより良く変えていくために、私たちには何ができるのかを、共に考えていきましょう。

## レポート

相手と向き合って心を合わせていくこと。  
【仏教:縁和・共徳の関係の意】

### お金や権力では 味わえないもの

今年がオリンピック・パラリンピックの年でしたが、選手の活躍は多くの感動を私たちに与えてくれました。彼らのチャレンジ精神には敬服する他ありません。私たちの人生においても何度かチャレンジすることがあると思います。いや、こうも言えるかもしれない。この世にいる以上、生きていることこそが一つのチャレンジではないかと。

「自分はこの世になぜ生まれたのか」

この疑問に対して自分探しの旅に出る青年たちもいますが、実際にはなかなか自分を探すのは難しいのが現実です。訳も分からず、取りあえず生きている人もこの世に多いのではないのでしょうか。最近の殺伐とした事件や出来事・自然災害を目の当たりにする時、「人」も「環境」もなんだかおかしくなっていると思わされることも多く、「生きることが困難であるという事実」が私たちの目の前に立ちはだかると、「この世のすべてはお金であり、権力である」とさえ感じてしまうこともあります。

私は一度、牧師という職業にチャレンジしましたが、精神的に参ってしまい、ドロップアウトしたことがあります。「この世のすべてはお金だ」という結論に至り、サラリーマンとしてがむ

しゃらに働いていた時、自分の予期しないことが起こると恐れが生まれ、その恐れが疑念を呼び、そして憎しみが湧き上がってくるという自分がいました。

私たちは予期しない苦難や試練に遭うと、それまで何らかの目的を持っていた、持とうとしていたにもかかわらず、それを見失ってしまいます。しかし、そんなところに神は、思いもしない奇跡をもって近づかれるのです。神は、私にも近づかれました。

聖書に、こんな言葉があります。

「恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。」  
(イザヤ書41章10節)

この言葉は、苦難が大きければ大きいほど、すごみが増します。この世の出来事は、私たちを意気消沈させることが多くあります。しかし聖書のみ言葉はいつまでも衰えることはありません。一度は挫折した牧師の道ですが、人との出会いという奇跡によって私は現在、京都にて牧会をしています。神のみ言葉は私たちにとっての命の源、そして最大の応援団。お金と権力では味わえない大きな喜びが魅力なのです。皆さんに主の祝福が大いにありますように。

日本ナザレン教団  
花園キリスト教会牧師  
篠沢 俊一郎

### ■「全リー研」主なプログラム (8つのセッション)

- ①「お互いを知らず!」
- ②「体験から学ぶとはどういうことか?」
- ③「私の体験をふりかえる」
- ④「体験からの学びを語る・聴く」
- ⑤「人生に影響した体験を聴く」
- ⑥「人生に影響する体験とは?」
- ⑦「人生に影響する体験をつくる」
- ⑧「あの体験があったから今の私がある」に向けて

## 第47回 全国YMCAリーダー研修会

◆テーマ: Because of 「あの体験があったから今の私がある」

◇参加者: 128人 (リーダー87人、スタッフ12人、運営委員15人、ゲスト14人)  
 ◇会場: 神戸YMCA余島野外活動センター (香川県)  
 ◇主催: 全国YMCAウェルネス担当者会  
 ◇主管: 神戸YMCA



### ★「全国YMCAリーダー研修会」とは?

全国YMCAのユースボランティアリーダーや指導者を対象に、毎年開催される研修会。



研修をつくり変えた、実行委員と余島のスタッフ

### ■初参加!のリーダーの声

千葉YMCA 井上 葵さん (リーダーネーム: ベルリン)

全国YMCAリーダー研修会に、千葉YMCAから参加させてもらいました。とにかく速くて、いや、速すぎだろ! と思いつつ乗った電車。寝て起きても寝て起きてもなかなか着かなかつたなあ。そしてやっと着いたら……海! 島! 興奮してずっと写真を撮っていました。

開会式が終わって、今度はグループでASEに挑戦。ちょー楽しい……何これ! っと思ってたのに、開始1時間で「楽しい時間はここまでです」の一言。

その後からひたすら続く座学とグループワーク。「自分の人生に影響した体験」について考えたり、聴いたり。それを分析したり、図式化したり。「体験とは?」「活動と成長の関係とは?」……難しく頭がパンクしかけた最後に来たセッションは、自分たちでプログラムを企画すること。対象年齢を決めて、その子たちの背景・現状はもちろん何も決まってない状態からのスタート。子どもたちに達成してほしい目的や目標、その達成のためにはどんな「体験」が必要なのか……。とにかくたくさん話して、やっと完成した時にはもう外が明るくなっていました。

その後は寝る間もなく、最終日。それぞれのグループがつくれたプログラムの発表です。最後は投票で上位3チームを決めたのですが、私たちのグループの「見て! 聞いて! 完成させろ!」という小学校3、4年生を対象としたプログラムが、なんと3位! 朝まで頑張った良かったって、心の底から思いました!! いつこのプログラムを実現したいなあ。



寝る間もなくプログラムを完成させた、ベルリンリーダー(左端)とメンバーたち

### ■まとめ: 「こんな社会」にしたいから

「キャンソングもゲーム大会も、キャンプファイヤーもない!」先輩から聞いていた「全リー研」とは違ったけれど、夢中になって取り組んだのは、「プログラムづくり」でした。



### ◆子どもたちが自分らしく生きられるように……グループで取り組んだ「プログラムづくり」

2日目の夜からは、「プログラムづくり」に挑戦。子どもたちは今、どんな課題を抱えているのだろう。それに立ち向かい、乗り越えていくのに必要な「体験」は……。そして、最終日のプログラム発表。投票の結果、1位には「旅をしよう!」が選ばれました。

### ◆1位に選ばれたプログラム「旅をしよう!」

対象は児童養護施設の子供たち。自分たちで計画して旅に出るという非日常が、協力や挑戦、達成といった「体験」を生み、たくましく生きていく力を得るという「目標」に向かいます。

### ◆つくったプログラムを持ち帰って……やってみる!

14のグループがつくれた14の「プログラム」。研修で生み出されたものを現場に持ち帰り、仲間と話し合い、実際にやってみる。このプロセスの中で、ユースたちはさらに力を発揮することができます。それこそが、今回の「全リー研」の成果です。



「旅をしよう!」の準備中



「旅をしよう!」の準備中

### 1 ASE

初日、参加者たちはASE®にチャレンジ。それぞれのグループが、ヤシの木、丸太、ロープなど、さまざまなものを用いた「一見不可能な課題」に、互いの考えや知識、経験を出し合って取り組みました。グループメンバーが共通の体験を持つことは、「体験」を取り扱う研修の土台となりました。

※ASE→Action (実際の活動)、Socialization (社会化)、Experience (体験)の頭文字で、解決できない課題に対して、グループのメンバーが協力して課題をクリアする活動。



速くのボウリングのピンを、地面に足を踏まないで取る!



取る!

### 2 自分の人生に影響した体験

2日目、YMCAでの活動経験を持つ3人のゲストスピーカー、林健児郎氏(日本キャンプ協会主事)、栗原康通氏(小児科医)、山本義和氏(小学校校長)のお話をもとに「人生に影響する体験」とは何かを分析、そしてグループで「人生に影響する体験」をつくることにチャレンジをしました。

思った時は、わくわくする……どうやって解決しよう!

いろいろな体験をつくるためには、いろいろな人が必要!



大きくなった時の姿を想像すると、子どもに必要な体験が見えてくる!



「旅をしよう!」の準備中

山本さん

## 第19回 日本YMCA大会

◆テーマ: 「ユースエンパワメントを加速する ~私たちの活動が社会を変える~」

◇参加者: 311人 (ユース160人、シニア151人)  
 ◇会場: 日本YMCA同盟国際青少年センター 東山荘 (静岡県)  
 ◇主催: 日本YMCA同盟

### ★「日本YMCA大会」とは?

全国のユース、会員、スタッフなどYMCA活動に関わるすべての人を対象に、2年に1度開催されます。「ミッションと課題の確認」「全国運動の一致と協力」「世界運動への参画」「YMCA間の交流・研修・情報交換」を目的とします。



ユースには、社会を変えていく可能性もある!

キーノートセッションでの鈴木さん

### ■「Y大会」主なプログラム

- STEP0: キーノートセッション  
「ユースエンパワメントって何?」鈴木洋一さん(Wake Up Japan共同代表)
- STEP1: グループディスカッション  
「ユースのためのYって? ~ユースが目指す社会とは?~」
- STEP2: グループディスカッション  
「ユースの現実とバリア~ユースによる社会への取り組み~」
- STEP3: グループディスカッション  
「ユースが動き出す!」
- 3日間のおまとめ・振り返り:  
グループディスカッション→各Yでの振り返り→全体のまとめ

### ■「Y大会」初のチャレンジ!

#### ←チャレンジ《大会の運営を担ったのは》

世界YMCA同盟「チェンジ・エージェント」とアジア・太平洋YMCA同盟「ユース・レプス」の2つのプログラムに参加する9人と、日本YMCA同盟ユース委員を務める3人。加盟YMCA所属の計12人のユースが、実行委員として大会の企画、広報、運営のすべてを担いました。



大会を担ったユースと、支えたシニア

#### ←チャレンジ《音を合わせる、JAZZを聴く》

大会の始まりと終わりを飾ったのは、参加者全員で音を合わせるドラムサークル。小さな鈴からアフリカの太鼓まで、一人ひとりが自分の音を鳴らすと、響き合って一つの大きなうねりが生まれました。

2日目はジャズに満たされました。聖日礼拝にはピアノとベースの演奏が取り入れられ、澤村雅史さん(広島YMCAチャレンジャー)が語られたメッセージ「Be the Miracle!」への応答は「アメージング・グレース」。そして、この日の締めくくりは「スペシャルジャズライブ」でした。



音楽を楽しむ中、中井さん(ピアノ)と中野さん(ベース)と

アメージング・グレースを歌う中、鈴木さん(ドラム)

#### ←チャレンジ《ユース同士、シニア同士、そして一緒に》

ディスカッションを、ユース同士、シニア同士で行いました。話し合い、耳を傾け合い、それぞれの思いを深めた後は、ユースとシニアの混合グループでシェアリング。さまざまな経験を持つシニアの発言から、ユースは新しい視点や知恵を得ました。また「社会を変えていきたい」というユースの思いを受け止め共に考えることで、シニアもエンパワーされました。



そして、ユースとシニアでシェアリング!

### ■まとめ: Change is possible!

(私たちの活動が社会を変える)

社会を変えるには、勇気を持って自分の意見を伝えること、相手の声に耳を傾けること、そして「行動すること」。

私たちの目指す社会とは、その実現のためにYMCAが取り組むべきことは何か。以下が、3日間の総括です。

### ◆「こんな社会」にしたい!

あるがままを認められる、自ら声を上げることができる、多様な居場所がある……

過度な競争や格差のない「平等な社会」、人が孤立しない「つながりのある社会」

### ◆YMCAで取り組んでいること、取り組むべきこと

異なる世代間で、活動や地域を超えて、YMCA内でつながりを強めたい。そして、YMCAのことを外に向かって発信する。Yをもっと知ってほしい。

活動と社会をつなげて考える、ユースが自分で考えて行動を起こす。そんな、いろいろな経験ができる機会をつくりたい。

貧困、差別、いじめ、平和、環境、ジェンダーなど、YMCAが向き合おうべき課題は社会にあふれている! だから、耳を傾け話し合い、そして行動する。



## ユースは社会を変えられる ~「全リー研」と「Y大会」~

「ユースエンパワメントはエンジンルームのようだ。YMCAのエンジンルームが活気づいたとき、社会に大きなインパクトを与えるだろう」

世界YMCA同盟総主事 ヨハン・エルツウィック

2016年10月8~10日は、2つの会場でユースをエンパワーする(その力を引き出し、強める)プログラムが開催されました。

「第47回全国YMCAリーダー研修会(「全リー研」)」と「第19回日本YMCA大会(「Y大会」)」。

ユース同士、またユースとシニアが、社会をどのように変えていきたいか、そのためには自分から、YMCAから、何をどう発信し、行動に結び付けていけばよいのか……共に一歩を踏み出すために語り合いました。

エンパワーされたユース一人ひとりの中で「何か」が動き出し、その変化が社会を変えていくことを実感した、それぞれの3日間をお伝えします。

\*ユースとシニア: 日本のYMCAでは18~35歳のすべての人を「ユース」と呼びます。日本YMCA大会では、ユースよりも年齢が上の皆さんを、便宜的に「シニア」と呼ばせていただきました。

### 「勇気を出して発信したい!」ユースの声



### 「あなたにとって「ユースエンパワメント」とは?」

- ・勇気をもって発信すること。自分の一歩には力があると信じること。
- ・ユースが自らの可能性を信じ、社会変革に向けて、日常の中で小さなアクションを起こしていくこと。
- ・ユースの話をよく聴くこと。ユースに任せきること、委ねきること。
- ・次の社会をデザインし作るのはユースですが、シニアが協力、支援して進めることでユースエンパワメントが有効に発揮されると思う。



よくなるために「地域の課題に答える」

みつかるために「何をすべきかを考える機会をつくる」

つながるために「安心できるあたたかい場をつくる」

NEWS 各地の動きをご紹介します。

Vol.19

We All Belong to YMCA

YMCAの活動に参画するユースからの発信

◆北九州YMCA

野外活動「パンダクラブ」「ダンボクラブ」「きらびかデイキャンプ」

◆内容：幼児・小学生・発達障がい児を対象にした野外活動クラブ。週に1回リーダーミーティングがあり高校生から大学生が集まる。

期待と不安に胸を膨らませて行った初めてのYMCA。大学生になり、子どもたちと関わることでできるボランティアをしたいと思い、インターネットで活動を知ったのがきっかけでした。緊張していた自分とは裏腹に、とてもフレンドリーに接してくれるスタッフの皆さん。そして、優しく接してくれる先輩方。YMCAの温かい雰囲気を肌で感じ、自分もここで頑張ろうと強く思ったことを覚えています。

しかし、意気込みや期待だけで子どもたちと接していた1年目・2年目は失敗の連続でした。「なんでわからないの?」「ダメって言ったやろ!」と、自分の感じたことをストレートに言葉に出し、いつも子どもたちに注意ばかりしていました。そして3年目を迎えた春、ふと今までの自分を振り返り、子どもたちのことを考えてみました。自分の周りには子どもがいないことや、自分が話している時の子どもたちの表情を思い浮かべると、そこには自分が期待していた「明るく信頼されるみんなのリーダー」の姿は一つもありませんでした。一生懸命子どもたちと関わり走り続けた2年間。自分がやってきたことは間違っていたのだろうか、何も成長していないどころか子どもたちを不幸にさせているのではないかと、その時初めて自分を客観視したように思います。そして、毎月の定例会のミーティングをしていく中で、私が見落としていた大切なことに気がきました。

それは、相手の目線に立つということです。自分の考えだけではなく、一人ひとりの目線に立つて物事を考えることで、初めてその人が何を必要とし、何を求めているのかが分かります。子どもたちの目線に立つことを知り、キャンプの楽しさの質に重点を置くようになってから、子どもたちも自分も、みるみる笑顔になっていることに気がきました。今では「リーダーがいて良かった!」という言葉が励みに、自分自身も楽しみながら活動を頑張っています。



右が永井さん

永井 僚 (ジョーリーダー)



YMCA東山荘 次の100年に向けて ⑦

「Building Community—御殿場に必要とされる東山荘として」

東山荘には3つの使命があります。第一の使命は、「すべての人が一つになるため」全国の都市YMCA、学生YMCA、ワイズメンズクラブなどに連なる人たちが、互いの違いを認めて共感し合える場を提供する、ということです。



荘内に広がる森のように、力強い働きを続けたい

第二の使命は、コミュニティをつくること。10月、日本YMCA大会に参加するために東山荘に来られた、日本YMCA同盟・元総理事の宮崎幸雄さんから、「ビジョンを示し、次に起こり得ることを予見して他者に利益を与えることに喜びを感じる」というサーバントリーダーシップを発揮して、互いに大きく成長し合うコミュニティをつくること、平和を創造することが、東山荘の使命であると伺いました。実際、御殿場のコミュニティでも3年前から「東山路観光協議会」を近隣の皆さんと立ち上げ、昨年は御殿場市の「東山二の岡地区まちづくり懇話会」などのコミュニティづくりに関わっています。

そして第三の使命として、2014年4月、東山荘は御殿場市と「災害時などにおける施設の利用に関する協定」を結びました。この締結により、大規模災害の発生時には、御殿場市東山地域の700人の住民の皆さんの避難所として、また災害対策委員(ボランティアなど)の宿泊所としてご利用いただくことになりました。来年の3月には、避難所体験オープンハウスも開催いたします。

この3つの使命を果たしていく中で、今年の11月、「第9回静岡県景観賞優秀賞」に91件の応募の中から東山荘の景観が選ばれました。2019年に御殿場で開催される「全国椿サミット」では、東山荘がメイン会場となることも決まりました。静岡で青年を育ててきた1世紀の歴史を経て、今、東山荘はさまざまな期待が寄せられる、コミュニティに必要な「東山荘」に変わろうとしています。

11月から週末と祝日は、新本館の食堂が「東山荘森のレストラン」として再スタートしました。このレストランが、地元御殿場の皆さんから観光に来られる方々まで、すべての人の癒しの場となることを願っています。

YMCA東山荘所長 堀口 廣司

○YMCA東山荘100年募金へのご協力をお願い!ご寄附は日本YMCA同盟HP内のサイトで受け付けています。https://srv.asp-bridge.net/ymca/index/

永年のご奉仕に感謝

加盟YMCAあるいは全国的なYMCA運動に対して貢献された方々325人と2団体の表彰・感謝の式が10月9日、第19回日本YMCA大会の席上で行われました。表彰された方は、感謝YMCAおよび同盟から推薦された、表彰委員会で選考し、第348回常議員会で決定されました。多くの方々のYMCAに対するご奉仕に心から感謝いたします。表彰を受けた方々のお名前は以下の通りです。(敬称略)

永年継続賞 25年勤続者賞 (69人)

- 北海道YMCA 沢田 勇子 西野 ひとみ 鹿中 由美 齋藤 志栄子 埼玉YMCA 櫻井 穂 東京YMCA 鈴木 聡子 戸坂 昇子 井口 真 瀬崎 慎子 華分 俊一 齊藤 希世 中里 敏 松本 数実 飛波 浩 安藤 麻恵子 加藤 学 高橋 里香 東川 真琴 横浜YMCA 佐竹 博 有田 征彦 横山 裕二 井沢 美紀 加藤 誠 齋藤 昇一 雲走 和孝 佐々木 美智 奥藤 一紀 井上 孝一 入倉 亮介 安田 みゆき 井藤 直人 青木 英幸

- 寺内 卓一郎 道賀YMCA 片岡 幸恵 京都YMCA 阿部 和博 奈良YMCA 梅中 幸一 大野 智子 大塚YMCA 荒賀 めぐみ 小島 英恵 片岡 千賀子 川崎 康博 杉山 聡子 古家 淳 神戸YMCA 功力 正士 後藤 みちこ 白土 寿乃 長野 聡 小澤 昌甲 広島YMCA 高野 千春 戸室 凡生 沖島 尚 足石 歳明 竹井 幸隆 小山 幸男 上瀬 正美 羽原 泰二 佐藤 多佳子 末次 茂生 熊本YMCA 井上 英史 上田 新一 日野 充裕 大塚 永幸 神保 勝己 中島 修 大久保 和生 日本YMCA同盟

- 佐久間 眞人 濱口 妙子 真鍋 泉 山根 一般 眞田 眞由美 永年継続賞 25年勤続者賞 (190人) 北海道YMCA 轟村 小夜子 小崎 藤給 深見 浩司 尾崎 則子 比治 妙子 小谷 敬子 後藤 みちこ 白土 寿乃 長野 聡 赤松 明彦 池田 正勝 増中 文明 山田 敬明 渡辺 善代美 千葉YMCA 齋藤 文世 東京YMCA 小山 康彦 吉岡 紀久雄 佐藤 洋司 澤栗 加奈 高野 隆 藤田 敏雄 藤野 敏郎 滝沢 頼子 天野 洋子 宮内 ふみ子 堀内 一 今井 武彦 秀島 直哉

- 伊藤 幾夫 橋田 毅 木谷 清 南谷 義弘 川口 修一郎 横浜YMCA 梅澤 龍吉 岡島 育雄 丸山 祥夫 三橋 昌恵 川津 政義 伊藤 比朗美 廣田 英雄 山梨YMCA 佃田 久江 村田 誠 東瀬 桂亜子 新田 勝彦 高野 孫左之門 寺田 喜長 古屋 秀樹 山梨YMCA 油井 純雄 渡辺 隆 藤田 一郎 熱海YMCA 久保田 康正 野村 康和 宝田 昌孝 谷口 泰幸 山田 修司 名古屋YMCA 深尾 俊雄 滋賀YMCA 井之上 温代 合志 禎子 東 康彦 三谷 龍 三原 静江 山田 祥子

- 一井 伸介 高橋 政弘 山口 淳子 大谷 のり子 曾我 秋子 川瀬 新彦 小山 眞 本庄 茂博 松岡 義隆 矢野 充 寺倉 利明 京都YMCA 島崎 光俊 佐々木 純子 大山 悠子 松本 忠正 森 伸二郎 太田 五博 今村 隆宏 榎山 賢子 林 寿一 西田 宏文 三村 良行 梅谷 隆雄 村田 善雄 奥村 賢三 宋 節子 染川 廣和 奈良YMCA 杉川 雅美 杉浦 英 大塚YMCA 尾和 信孝 小寺 規久子 清水 汎 神社 洋一 長谷川 ゆかり 堀田 敦子

- 松原 伸幸 守谷 久代 和歌山YMCA 古田 晴恵 神戸YMCA 有岡 孝司 中尾 幸子 二宮 美由紀 榎林 平 濱田 悠史 森田 誠 坂本 信敬 森 祐一 久内 節子 橋本 真 浅野 武彦 前田 慎吾 小山 秀夫 久保 武司 市原 正幸 齋木 基 榎家 和幸 長谷川 勇 中野 光一 西尾 道 三浦 実 桂木 保男 黒田 範子 藤本 新作 藤本 依伸 山崎 聖子 神原 聖子 小野 英子 小野 正文 宗和 公友 佐竹 真美

- 長尾 トヨ子 井上 隆生 柳生 成世 春藤 桂子 前田 邦子 五十男 白石 千津栄 小野 里佳 長井 慎吾 梅津 香代 嶋 健 松井 多美子 田中 百一郎 岡 百合子 中井 由美子 大橋 妙子 石田 謙一 安崎 規郎 同崎 祐子 遠藤 宏子 西山 善治 橋爪 宏之 高出 真理 井口 良子 佐々木 照子 同本 佑吉 神田 千代子 井上 一美 二宮 正 田中 康秀 杉山 秀光 野口 勝美 安室 恵一 熊本YMCA 有馬 留以子 松岡 郁子 田上 正 内田 俊明 上村 眞智子 岩切 和子

- 鈴木 敬雄 柏尾 誠之 城戸 宏明 坂本 美穂 松本 和良 今村 秀夫 今村 浩子 桑原 純一郎 清野 健 宮川 輝之 守田 富男 中林 眞理子 東京大学YMCA 弥永 真生 永年継続賞 50年勤続者賞 (32人) 北海道YMCA 川口 宗美 東京YMCA 栗田 幸一 鈴木 泰子 佐藤 公夫 森本 勇生 堀井 晃 神保 伊知雄 加賀 治子 東 信雄 岩瀬 康彦 向井 克彦 古田 明弘 遠矢 良男 石川 康彦 横浜YMCA 仁科 保雄 茂木 雄 中島 敬彦 廣井 武司 古本 幸男 亀井 剛

- 荒川 文門 黒田 忠雄 道賀YMCA 金田 哲 清水 誠治郎 津野 忠昭 寺川 亮 中野 義彦 鹿野 浩生 藤原 正巳 大谷 勝彦 河本 武久 山内 信三 神戸YMCA 村上 盛嗣 井上 結平 広島YMCA 林 辰也 植田 マリ 齋藤 隆幸 早稲田大学YMCA 宮坂 昭子 青少年奉仕賞 (31人) 横浜YMCA 田口 登吉 佐藤 八重子 宮崎 美枝子 名古屋YMCA 浅野 猛雄 阿部 美男 京都YMCA 仁科 保雄 茂木 雄 中島 敬彦 廣井 武司 古本 幸男 亀井 剛

- 奥村 正治 大塚YMCA 金岡 肇雄 金田 哲 清水 誠治郎 津野 忠昭 寺川 亮 中野 義彦 鹿野 浩生 藤原 正巳 大谷 勝彦 河本 武久 山内 信三 神戸YMCA 村上 盛嗣 井上 結平 広島YMCA 林 辰也 植田 マリ 齋藤 隆幸 早稲田大学YMCA 宮坂 昭子 青少年奉仕賞 (1人・2団体) 仙台YMCA 阿部 清 日本YMCA同盟 Japanese Cultural and Community Center of Northern California 被災地にクライマーを送る会 特別功労賞 (2人) 大塚YMCA 西村 耕 中村 勝吾